

ΔΥΝΑΜΙΣ

No.14

1992.7.1.

漫画の話

近藤 祐一

漫画による異文化研究ということを経験に気付かせてくれたのは小野耕世¹やDorfman & Mattelart²だった。

漫画といったような「大衆文化」を通しての「文化研究」というのは新しい発見だったので、旅行に行く度に現地の漫画を買って来るようになった。それを少し紹介し、異文化を知る手立ては結構どこにでも転がっているんだということを知ってほしい。

アジアで今一番著名な漫画家と言えばマレーシアのLat³だろう。The New Strait Timesに漫画を書いており、マレーシアの問題などを愉快にしかし鋭く描いている。マレーシアやシンガポールに行くとき英語やマレー語で新聞掲載をまとめたものや小説風の前まで十数種類でている。日本では自伝的な作品の「カンボンのガキ大将」が出版されているが、それからは普通のマレーシア人の生活史がよくわかる。漫画は視覚的にマレー半島の家の構造や、服装、食べ物、しぐさなどを提示し、家族が食事をしているコマだけでもマレーシア人家庭の文化価値が良くわかる。

お隣のシンガポールではつい最近まであからさまな政治漫画を出版しようとする勇氣ある出版社はなかった。新聞では夕刊紙のThe New PaperにColin Gohという若い作家が若者の生活を風刺した漫画を描いているだけで、後はただ笑えるだけの漫画しか出版されていなかった。ただ、リー元首相からゴーク首相に変わり少しは「笑い」に対しても政府が寛容になったらしく「Hello Chok Tong Goodbye Kuan Yew」⁴という政治的なメッセージの入った漫画も出版されている。文化的側面だけでなく、漫画が出版されるかとかどこまで描けるかでその国の政治的側面まで投影するのは面白い現象だ。

香港では長い歴史を持つ South China Morning Postがあり、そこにはLarry Feignの「The Adventure of Lily Wong」が掲載されている。日常の香港の問題から、1997年についてまで実に良く描かれている。最近出版されたものでは、香港移民の北米での生活を取り上げていて、私の専攻の異文化コミュニケーションから見て的確な描写がなされている。少しでも香港の文化を知っていると絶対に笑えるのが「Fong's AIEEYAAA漫画中香港生活趣事」だ。⁵ 同時にどんな学問書よりも良い香港文化入門書である。日本人や白人に対する感情もストレートに表されていて容赦がない。

今回はほんの一部しか紹介出来なかったが、もっと「柔らかい」ものを使って異文化を知るというのもあっていいし、そのほうが実はその文化をその国や地域の人達の目線で見られる。笑いながら知識を得ていくのもあながち悪くはない。

「漫画の話」注

¹小野耕世。「いまアジアが面白い：マンガ・映画・アニメーション」東京：晶文社、1983

²Dorfman, Ariel & Mattelart, Armand. How To Read DONALD DUCK : Imperialist Ideology in the Disney Comic. New York:International General, 1971

³「カンボン」の続編のTown Boy は侯孝賢の映画「童年往事」のような美しさがある。

⁴これをまとめたものとして、Colin Goh. Orchard Road: The Restricted Zone, 1989 及び I Was a Teenage Sex Slave, 1990 共にSingapore:Times Books International.

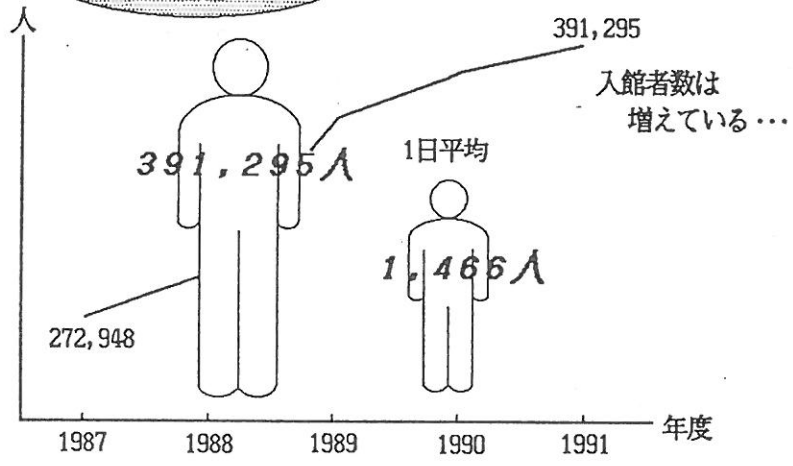
⁵Nonis, George. Hello Chok Tong, Goodbye Kuan Yew. Singapore:Angsana Books, 1991

⁶このLarry Fein のシリーズには2冊あり、本文中の1986出版のものとして、「Fong's AIEEYAAA, Not Again! 更多香港生活趣事漫画」があり、共にHong Kong Standard より出版されている。

(Yuichi KONDO : 外国語学部講師)

データ of 図書館 1991年度

入館者数 (人)

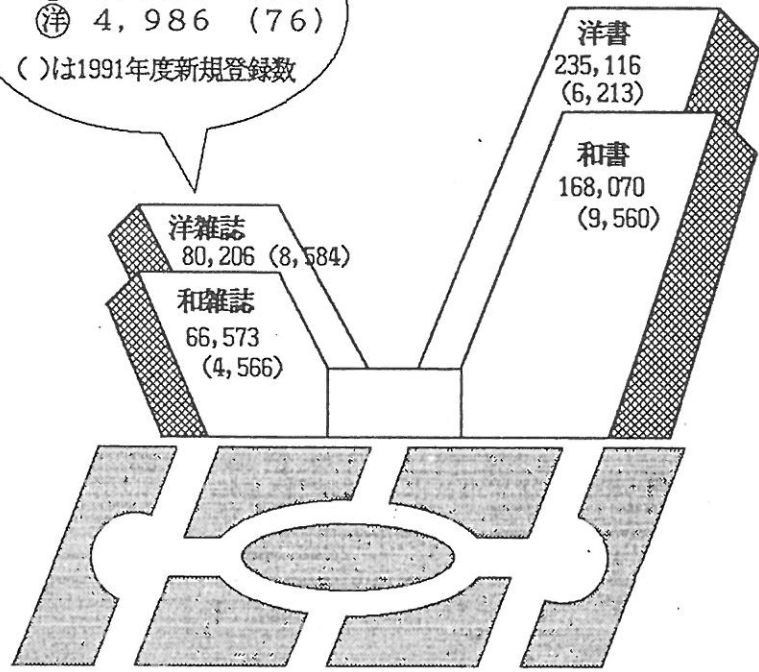


蔵書冊数 (冊)

累計 549,985冊

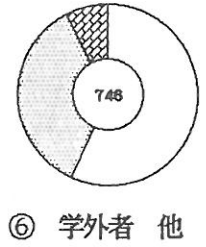
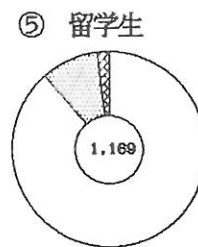
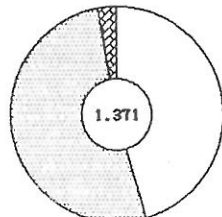
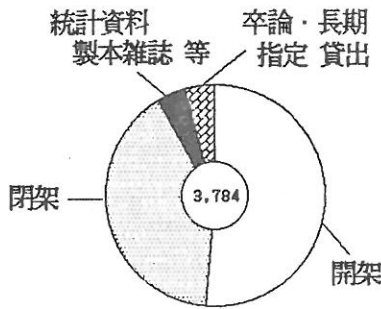
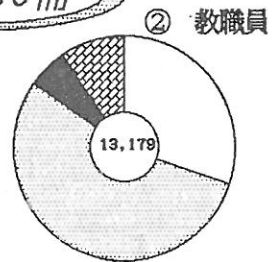
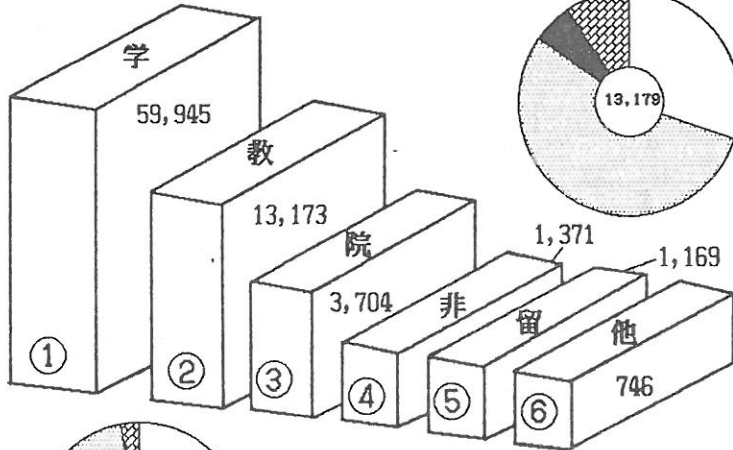
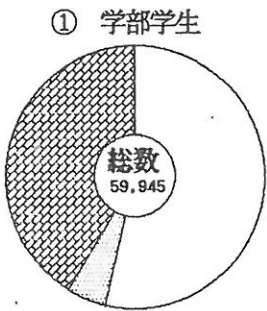
タイトル数 11,911
 (和) 6,925 (79)
 (洋) 4,986 (76)
 ()は1991年度新規登録数

1992. 3. 31. 現在

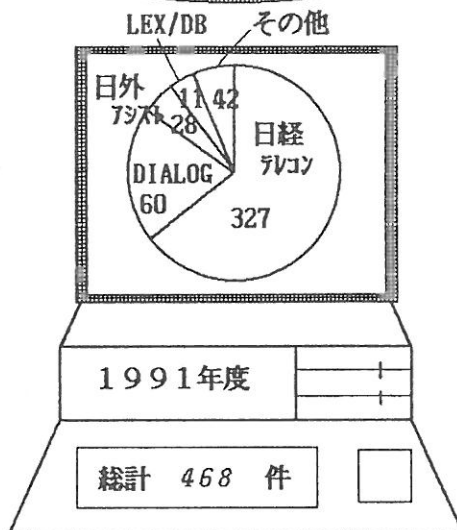


()は1991年度登録冊数

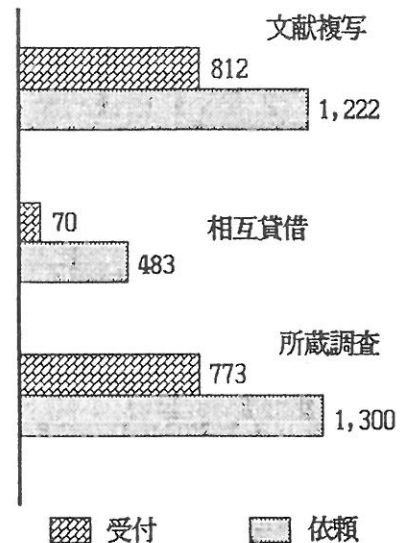
貸出冊数(冊) 80,108冊



情報検索(件)



相互協力(件)



カトリック文庫（仮称）に向けて

山本和義

本学図書館において「カトリック文庫」の構想がはぐくまれたのは、平成元年のことであった。図書館職員との日ごろの対話を通じて、カトリック大学の図書館にふさわしい文庫（資料群）を構築することは、本学図書館に課された社会的、また学術上の使命を果たすうえで、適切でありかつ重要であると判断するに至った私は、職員との対話を深めつつ、リーマー学長に構想を語って助言を求めた。その上で、平成2年度の予算原案を審議する図書館委員会に諮って、「カトリック資料費」の名で認められ、大学評議会の議を経て、100万円の予算が計上されるに至ったのであった。

本文庫の目的とするのは、狭くカトリック布教史を跡づけることのみを図るのではなく、わが国におけるキリスト教文化の歴史を精緻に究めることにある。したがって資料収集の対象をカトリック教会に関わるものに限定するのではない。平成2年度の図書館委員会（4.21開催）において、将来の「カトリック文庫」（仮称）の創設を前提として、和書にあっては明治・大正・昭和初期のキリスト教関係資料を、洋書にあってはカトリック関係歴史資料（特に東洋布教に関連して）を収書の範囲とし、プロテスタント関係資料を含めることが承認され、ここに長期にわたるであろう図書館の一事業がスタートした。その年度に特に予算の増額補正が認められて、約350万円のザビエル関係のコレクション（書籍100点、銅版画5点）を購うことができたのは、私どもの大きなよろこびであった。「文庫」は祝福されて歩みを始めた。

爾来、図書館は、与えられた予算を適切に使うとともに、広く学内外に協力を求めて、意欲的に資料を収集してきた。収書のための図書館職員の脚は、神言修道会の多治見修道院はもとより、長崎・福江・金沢・新潟・山形・秋田・岩手・横浜・東京など各地の教会・修道院・司教館に及んで、大量の貴重な資料を受贈している。その際、神言修道会日本管区長森山勝文神父は、私どもの事業に深い理解を示され、惜しみなく力を添えてくださった。また故木村太郎教授のご遺族から250冊を越える旧蔵書を割愛していただいたほか、現職員から資料収集のための資金を寄託されるなどのこともあった。

本年4月、図書館職員から成る「カトリック文庫」プロジェクト委員会が発足した。「文庫」の礎を築くうえで、この委員会の責任は重い。私は、資料の整理方針について十分な検討を加えるほか、「文庫」の将来像を明確にするとともに、図書館の主体性を堅持しつつ、館外に開かれた運営を図って、「文庫」を称しうる日を近い将来にもたらすことを期待している。

本「文庫」は社会に広く（とりわけ国の内外の研究者に）開かれたものでありたい。それ故にこそ、「文庫」を育ててゆく過程でのみなさんのご協力を切にお願いする。

（図書館長）

1992年度 図書館特別企画

テーマ：「聖書を中心としたキリスト教関係資料展」

期 日：7月13日（月）～7月18日（土）

場 所：図書館 1階 会議室

内 容：本学所蔵聖書（和・洋書）及び関連図書の展示
「カトリック文庫」（仮称）収集図書の一部紹介



《文庫訪問》

みどり子ども図書館

今回の〈文庫訪問〉は、名古屋市内に全国でも珍しい子ども図書館があるという情報を得、早速訪問してみることにした。

市内といっても中川区のはずれ、名古屋高速千音寺インター近くで、南山大学から出かけると丁度名古屋を東から西へと横断する形となる。地下鉄、バスと乗り継いで約1時間30分。周囲は近くに高速道路が通り、ところどころにまだ畑が残っているといった場所である。みどり子ども図書館は図書館という少し堅苦しいイメージではなく、ライト・ブルーの外壁の洋風の個人住宅といった親しみやすい雰囲気建物であった。

閲覧室は1階のワン・フロアで、片側のガラス戸から陽が差し込み、明るい印象であった。そのコーナーで、早速、館長である佐藤宗夫さんよりお話を伺った。

まず、この図書館は佐藤館長が自費で建てられたもので、現在でも個人の力で運営されている。以前は同じ場所で保育園を営まれていたが、その頃から園内に児童文庫を作り、子ども達に貸し出しをしてみえたそうである。その後、近隣の子どもの数の減少により、やむなく保育園を閉鎖することとなったが、長年の夢であった子ども図書館の実現に力を尽くされ現在に至っている。またこの図書館では専任の司書を4名おき、その選書方針も一定のものを持っている。まず、第一の方針は、司書の方が児童書専門書店メルヘン・ハウス（千種区。南山大学のすぐ近くにある、全国で最初の児童書専門書店。南山の卒業生の方が経営している。）で、実際に本を手にとって選んでいる。次にマンガ及びマンガ学習本、ビデオはおかない。そして外国ものは完全訳本のみをおいて抄訳・翻案本はおかない。伝記は低学年向きのものはおかない等々。私たち自身小学生時代を振り返ると、偉人伝をよく読みまた学校の課題図書としても読まされた記憶があるため、その方針を不思議に思い、佐藤館長に理由を伺うと、「人間には光と陰の部分があるが、子ども向きの伝記には光の部分しか描いていないものがほとんどのため」との回答が返ってきた。

また、この図書館の活動の特徴の一つとして「読みかせ」を非常に大切にしていることがあげられる。とにかく時間の許す限り子ども達から依頼があればその都度、本を読みかかせているとのことである。この図書館にくる子ども達のほとんどは最初から本好きというわけではなく、むしろマンガやファミコンの方に興味を持っていた子達だが、「読みかせ」から次第に子ども自身で読むようになり、読書量が増えていくという過程を実際に経験されて、読書に入るきっかけとしての「読みかせ」の大切さを実感しておられる

ようであった。そして子ども達と本とを結びつけるための様々な工夫も欠かしていない。例えば月刊の「ぼぶら通信」（新しい本の紹介や本に関するクイズ等が載った図書館だより）や「読書のあしあと」（読んだ本を記入していく個人用のリストで自分自身の読書史になる）の発行、子どもの日や開館記念日等の楽しい行事。

本来ならば、負担の多い個人運営ではなく、公立の子ども図書館があれば理想である。しかしながら現在のところ名古屋市内の公立図書館ではフロアの一部スペースに子どものコーナーがあるくらいで、子どもが自由に少しぐらのおしゃべりしながら楽しく本に接することのできる雰囲気はあまりないようである。また中川区の中心からは離れたこの地域には公立図書館もなく、近隣の学校の児童が利用者の大半とのことである。子どもの場合、行動範囲は歩いて行ける程度のところなので、一区に一図書館では少なすぎる。少なくとも一学区に一館が理想ともいえる。現在、各地方自治体でも子ども図書館設立の計画が次第に増えはじめていくとのことである。それは別の方向で、児童書専門書店が企業とタイ・アップする形で大型スーパーマーケット内に子どもの図書館を設けているところもある。

「ポストの数ほど子ども図書館を！」とおっしゃる佐藤館長からは子ども図書館にける情熱が伝わってくるが、個人運営とのことで全ての経費が佐藤館長の講演料等で賄われている今現在、長い間維持していくことの困難さも感じておられるようであった。

私たちが館長にお話を伺っている間にも閲覧室には小学生やお母さんと一緒の子ども達次第に増えていき、本を読んだり、床に座って読みかかせてもらったり、またコーナーでぬいぐるみと遊んだり、とても楽しそうなのが印象的だった。私たちも館内をゆっくり見てまわり、自分たちが子どもの頃読んだ本を見つけたり、また随分新しい児童書が出版されていることを知り、童心に返った楽しい一時であった。

皆さんも交通の便が少々悪いのが難点ですが、是非一度、みどり子ども図書館に出かけてみませんか。懐かしい一冊が見つかるだけでなく、新しい発見もあると思います。（榎原素子、平松富美）

開館時間:1:00p.m.~ 6:00p.m.(休館日:月・水)

貸出冊数・期間:1人2冊 2週間

蔵書数:約20,000冊('92.5.19現在)

* 問い合わせ先 * みどり子ども図書館

〒454名古屋市中川区富田町大字新家字横枕812-1

TEL (052) 431-8814

《外部データベース紹介》

NAC S I S - I R
(National Center for Science Information
System - Information Retrieval Service)

雑誌記事索引データベース

NAC S I S - I Rについては館報5号で取り上げましたが、はや2年の月日が流れてデータベース(以下DB)の数も増えました。今回はその中でも、力強い味方となる雑誌記事索引DBについて紹介します。

このDBは、国立国会図書館に納本された学術雑誌、大学紀要など約3千3百誌に掲載された論文の書誌を収録しています。収録期間は1984年からで、年4回データが更新されており、92年5月現在で約83万件のデータを収録しています。対応する冊子体としては、『雑誌記事索引』(Z/020/Z1)の人文・社会編、科学技術編が刊行されています。また、冊子体の人文・社会編については1948～84年の間は累積索引版も刊行されています。

1983年までのものは冊子体の累積索引版を利用してもらう他はないのですが、84年以降の論文を探すのなら絶対的にDBの方がお利口さんです。「それは何故?」と言われる方にご説明しましょう。掲載雑誌名を知りたい人で、既に論文名も著者も雑誌掲載年も分かっている人は冊子体で調べた方がお金がかかりません。しかし雑誌掲載年が分からない人は、冊子体で調べるには大変な労力がかかります。何故なら冊子体は年4冊刊行されますから、もし7年分を調べようと思えば28冊を一々引かなければならないからです。

論文の検索方法としては、冊子体は件名(主題)索引と著者名索引しかありませんので、論文名や雑誌名からは探すことができません。しかし、DBならデータのすべての項目が検索キーになりますので、著者名、件名はもちろん、論文名、掲載雑誌名、雑誌の刊行年、ISSNなどからも検索することができます。

ですからDBでは、例えば著者別のリストや雑誌別のリストを作成することもできます。また、冊子体では複数の学問領域にまたがるテーマの文献は探しにくいのですが、DBは論文名やサブタイトル、雑誌名などからも検索できるので比較的容易に探すことができます。当然のことながら雑誌記事索引において、論文名しかわからない人はDBに頼るほかありません。

このように便利で優れた機能を持つDBですが、お金がかかります。接続料金は1分間50円、1件のデータを出力するごとに13円かかります。参考カウンターでは、調査内容に応じて相談のりますので、

雑誌論文がうまく探せない!

という人は気軽に参考カウンターまで来て下さい。DB、冊子体その他もろもろの調査方法を駆使してきつとあなたのお役に立ちます。

(参考係: 土屋 玲)

《ライブラリアンズ・ハート》

センスを磨け

ここ数年、新学期になると新入生対象の図書館ガイダンスを他の館員とともに担当する。今年は文学部が私の担当であった。

この図書館ガイダンス、毎年何を話すか頭を痛めるが、今年の私の話は『センスを磨け!』と題して一種の宇宙論を展開させていただいた。その骨子を以下に再掲すると、
「宇宙のことをUniverseと言い、大学のことをUniversityという。つまり大学も一つの宇宙であり、また人は誰も内なる小宇宙を持っている。そしてみんなはこの南山大学という宇宙空間で自分の持っている内なる小宇宙と大学と言う宇宙のぶつかり合い、あるいは小宇宙同士のぶつかり合いを体験するはずである。そこでは様々な摩擦・衝突が起きるのであろうが、それを乗り越えて[エイリアン同士]お互いに切磋琢磨し、センスの磨き合い、高め合いをしていこう。そうすれば、そこから新しい宇宙[=新しい南山大学]・文化が生まれてくるのであり、そこにこそ既存の宇宙空間の住民である我々と新しく出現したあなたがたという小宇宙群のお互いの存在価値があるのである。このように我々は相互に重要な求め合っている存在なのである……。」以下、大学がそういったセンスの磨き合いをする場だとして、図書館としては何が出来るか?それは学術情報をサービスする場面においてである。そこで……、という風に続く。

ここで敢えて断言させていただければ、大学でやるべきことはセンスを磨くということ以外にはあり得ない。センスを磨くとは感性、人間性を高めるということである。そして恐らくそれは最終的に自分自身の価値に気づくということと密接な関係を持っている。どんなことでも良い、何か一芸に秀でたもの、一つの世界を在学中に自分のものにして欲しい。それさえできれば大学に来た価値は十分であると言えるし、それこそが以後の人生における最大の宝になる。

だからみんな、積極果敢にセンスを磨け!



(整理係: 紅露 剛)

《伝言版》 夏期長期貸出

本を長あ〜く借りる知恵

試験が終われば、夏休み。帰省する人、旅行する人、アルバイトに明け暮れる人、それぞれに忙しい夏休み。そんな平和な休みのある日、「あ!今日は本の返却期限日だ!」と慌ててしまう事も。「外は暑い」から、「起きたら夜だった」から、「講義のない日は大学に行けない体質だから……」等々。人にはそれぞれ、図書館に来られない理由があるかもしれない。それも、夏休みになると特に。転ばぬ先の杖、そんな時“夏期長期貸出”を利用して下さい。

<夏期長期貸出>

* 対象: 1~3年生 * 期間: 7月8日~28日 * 冊数: 10冊まで
7月8日に借りると返却期限日は9月27日
7月28日に借りると10月11日になります。

★4年生は「卒論貸出」がこれに代わります。

ライブラリーカレンダー
1992.7 ~ 1992.9

7 月				8 月				9 月			
9:00	4:30	8:00		9:00	4:30	8:00		9:00	4:30	8:00	
	6:30		長 書				書		6:30		書
1(水)				1(土)				1(火)			
2(木)			★	2(日)				2(水)			
3(金)				3(月)				3(木)			★
4(土)	6:00		★	4(火)				4(金)			
5(日)				5(水)				5(土)			
6(月)			★	6(木)				6(日)			
7(火)				7(金)				7(月)			★
8(水)			★	8(土)				8(火)			
9(木)			★	9(日)				9(水)			
10(金)			★	10(月)				10(木)			★
11(土)	6:00		★	11(火)				11(金)			
12(日)				12(水)				12(土)			
13(月)			★	13(木)				13(日)			
14(火)			★	14(金)				14(月)			★
15(水)			★	15(土)				15(火)	敬老の日		
16(木)			★	16(日)				16(水)			
17(金)			★	17(月)			★	17(木)			★
18(土)	6:00		★	18(火)				18(金)			
19(日)				19(水)				19(土)			
20(月)			★	20(木)			★	20(日)			
21(火)			★	21(金)				21(月)			★
22(水)			★	22(土)				22(火)			
23(木)			★	23(日)				23(水)	秋分の日		
24(金)			★	24(月)			★	24(木)			★
25(土)				25(火)				25(金)			
26(日)				26(水)				26(土)			
27(月)			★	27(木)			★	27(日)			
28(火)			★	28(金)				28(月)			★
29(水)				29(土)				29(火)			
30(木)			★	30(日)				30(水)			
31(金)				31(月)			★				

：開館時間 長：夏期休暇中長期貸出取扱期間
書：3・4年次生書庫入庫日（月・木 pm1:00～4:30, 土 pm9:00～11:30）
GEMMA講習会、文献探索講習会は、10月より再開します。

注：上記の日程は変更することがあります。図書館長公示に注意してください。

《編集後記》



DTPという禁断の果
を食したEveたちに
お許しを。

㊦

(タイトルデザイン: 平松富美)

南山大学図書館報 デュナミス No.14
1992.7.1.発行
南山大学図書館 広報委員会
編集委員：後藤、伊與田、喜多島
〒466 名古屋市昭和区山里町18
Tel. 052(832)3707
Fax(G3) 052(833)8986